

第20回

三重県文化賞受賞者名簿

三 重 県

第20回三重県文化賞 総評

三重県文化賞は、三重県の文化振興に貢献し、その活動や功績が優れた個人・団体（以下「個人等」という。）を讃えることにより、優れた活動や功績の周知を図るとともに、より高い自己研鑽に努めていただく目標になるようにという趣旨で設けられた顕彰制度である。

表彰の体系は、芸術、伝統芸能、生活文化等における活動と功績が優れ、本県の文化向上に貢献した個人等を対象にしている文化大賞、文化功労賞及び文化奨励賞と、芸術、伝統芸能、生活文化等における活動で将来一層の向上が期待される個人等（県内在住又は三重県出身者に限る。）を対象にしている文化新人賞からなる。

平成13年度の第1回表彰から令和元年度の第19回表彰までの受賞者数は268名・団体（以下「名」という。）である。

受賞候補者の推薦は、公募により、自薦、他薦を問わない。

第20回目になる今回は、令和2年8月12日から10月12日まで募集を行ったところ、52名の方からの推薦があり、受賞候補者は48名となった。

【募集結果】

受賞区分	推薦数	受賞候補者数
文化大賞	18	14
文化功労賞	10	10
文化奨励賞	18	18
文化新人賞	6	6
計	52	48

各賞の受賞者については、三重県文化賞表彰要綱及び三重県文化賞実施要領の規定に基づき、学識経験者、芸術文化関係者等10名で構成する第20回三重県文化賞選考委員会（以下「選考委員会」という。）の選考を経て、知事が決定する。

選考委員会では、推薦書、履歴・業績調書、履歴・業績を示す資料を基に、必要に応じて内容の確認や追加資料の提出を求め、厳正かつ公正に行った。

選考委員会における各賞の選考過程は次のとおりである。

文化大賞は、「芸術、伝統芸能、生活文化等にかかる活動と功績が極めて優れ、三重県の文化の向上に貢献した個人等」に授与するものである。

この視点で第一次選考を行って2名に絞り込み、第二次選考を行った。いずれの活動、功績とも素晴らしく優劣をつけがたいものであったが、音楽分

野（吹奏楽・指揮）の菅生和光さんを選出した。

文化功労賞は、「芸術、伝統芸能、生活文化等にかかる活動と功績が優れ、三重県の文化の活性化に貢献した個人等」に授与するものである。

この視点で、第一次選考を行って6名に絞り込み、第二次選考を行った。それぞれの分野において優れた活動実績が認められたが、選考の結果、音楽分野（ピアニスト・音楽指導者）の兼重直文さん、写真分野の坂尾富司さん、音楽分野（合唱）の津女声合唱団の3名を選出となった。

文化奨励賞は、「芸術、伝統芸能、生活文化等にかかる活動により功績を収め、三重県の文化興しに貢献した個人等」に授与するものである。

この視点で第一次選考を行って11名に絞り込み、第二次選考を行った。それぞれの分野において優れた活動実績が認められたが、選考の結果、伝統芸能分野（邦楽）の加藤訓峯さん、生活文化分野（書道）の中川瑠雲（本名：中川成人）さん、文学分野（川柳・エッセイ・小説）の橋倉久美子さん、美術分野（ガラス工芸）の林田さなえさん、伝統工芸分野（松阪木綿）の松阪もめん手織り伝承グループゆうづる会の5名を選出した。

文化新人賞は、「県内在住者又は三重県出身者で、芸術、伝統芸能、生活文化等にかかる活動で、将来一層の向上が期待される個人等」に授与するものである。

この視点で第一次選考を行って5名に絞り込み、第二次選考を行った。それぞれの分野において優れた活動実績が認められたが、選考の結果、美術分野（デザイン）の加藤ひろなさん、音楽分野（リコーダー）の中村栄宏さん、生活文化分野（書道）の百地拓窓（本名：百地拓也）さんの3名を選出した。

選考結果をみると、選考委員会での真摯な議論により、各賞とも素晴らしい方々を選出することができた。受賞された皆様におかれては、今後ますますのご活躍と、三重県の文化レベルの一層の向上に寄与していただくことを期待したい。

今回の受賞者を分野別で見ると、文学分野1名、美術分野2名、音楽分野4名、写真分野1名、伝統芸能分野1名、伝統工芸分野1名、生活文化分野2名であった。

文学分野、美術分野、音楽分野での推薦がこれまでに引き続き多いものの、伝統工芸分野等の例年にない分野の推薦が出てきており、文化賞の広報活動を推進することで認知度を上げて、更なる幅広い分野からの推薦をいただくよう期待する。

なお、推薦件数は昨年度より 14 件多い 52 件であったが、新人賞の推薦件数が少ないことから、第 21 回以降は、より多くの、そして、より多彩な文化活動に携わっている方々の成果が多く推薦されることを願う。

最後に、三重県の文化の向上に寄与するため、三重県の文化活動のさらなる活性化と向上のための礎となることを願う。そのためにも、三重県文化賞の意義をより明快に県民に認知していただけるよう、広報をさらに充実することで、幅広い分野や多くの地域の方々からの積極的な応募につながることを切望する。

第 20 回三重県文化賞選考委員会

(受賞者名は各賞五十音順)

第20回三重県文化賞受賞者

(受賞者名)	(住所)	(活動分野等)
〔文化大賞〕 菅生 和光 (78歳)	伊賀市	音楽分野 (吹奏楽・指揮)
〔文化功労賞〕 兼重 直文 (66歳)	津市	音楽分野 (ピアニスト・音楽指導者)
坂尾 富司 (70歳) 津女声合唱団	鈴鹿市 津市	写真分野 音楽分野 (合唱)
〔文化奨励賞〕 加藤 訓峯 中川 瑠雲 (49歳) (本名:中川 成人) 橋倉 久美子 (58歳)	鈴鹿市 鈴鹿市 津市	伝統芸能分野 (邦楽) 生活文化分野 (書道) 文学分野 (川柳、エッセイ、小説)
林田 さなえ (61歳) 松阪もめん手織り伝承 グループゆうづる会	名張市 松阪市	美術分野 (ガラス工芸) 伝統工芸分野 (松阪木綿)
〔文化新人賞〕 加藤 ひろな (18歳) 中村 栄宏 (32歳)	鈴鹿市 オランダ (桑名市出身)	美術分野 (デザイン) 音楽分野 (リコーダー)
百地 拓窓 (28歳) (本名:百地 拓也)	名張市	生活文化分野 (書道)

(各賞五十音順、年齢は令和3年5月30日現在)

賞別：文化大賞

活動分野等：音楽分野（吹奏楽・指揮）

名 前	住 所	受 賞 理 由
<p>すごう わこう 菅生 和光 (78 歳)</p>	<p>伊賀市</p>	<p>氏は、大学在学中の昭和 41 年に三重県初の市民バンド「上野バンドアカデミー」を設立し、現在まで 54 年の長きにわたり指導を続けてきた。また、伊賀市初の管弦楽団「伊賀コミュニティオーケストラ」や「ワコーズウインドオーケストラ」の設立のほか、高校の音楽教諭として、木本高校や名張高校、名張桔梗丘高校、上野高校の吹奏楽部を東海大会に導き、優れた成績を収めた。</p> <p>さらに、東海吹奏楽連盟の常任理事や三重県吹奏楽連盟の副理事長などの要職を歴任し、三重県の吹奏楽の普及に貢献してきた。</p> <p>これらの活躍により、昭和 54 年に「日本吹奏楽指導者協会」優秀指導者賞、平成 15 年に「全日本吹奏楽連盟」役員表彰を受賞するなど、数多くの優れた功績を収めた。</p> <p>この他、三重県で開催された「第 30 回国民体育大会」や「第 31 回全国植樹祭」において主任指揮者として式典音楽隊を指導・指揮し、式典の成功に大きく貢献した。</p> <p>また、吹奏楽の指導・指揮以外に、社歌・校歌・園歌などの作曲やピアノコンクール・コンサートの立ち上げ、地域の和太鼓集団の設立など、幅広い音楽活動を行ってきた。</p> <p>氏のこうした活動と功績は極めて優れたものであり、本県の文化の向上に大きく貢献している。</p>

賞別：文化功労賞

活動分野等：音楽分野（ピアニスト・音楽指導者）

名 前	住 所	受 賞 理 由
<p>かねしげ なおふみ 兼重 直文 (66 歳)</p>	<p>津市</p>	<p>氏は、中学・高校時代に「全日本学生音楽コンクール西部大会」ピアノ部門において第一位となり全国大会に出場するなど、若くから活躍してきた。昭和 52 年に三重大学の教官となり、音楽の研究を行うとともに多くの学生に対してピアノの指導をしてきた。</p> <p>また、自らもピアニストとして数多くのリサイタルを開催してきた。県内の演奏家や三重フィルハーモニー交響楽団等のオーケストラ、さらにはワルシャワフィルハーモニー首席奏者等の海外のトップアーティストとも共演し、質の高い演奏を県民に提供している。</p> <p>これらの活躍により、平成 7 年には津市文化奨励賞を受賞している。</p> <p>さらに、県内外のコンクールにおいて、実行委員長・委員・審査員等を歴任してきた。とりわけ、平成 7 年に三重県の若手音楽家の登竜門である「みえ文化芸術祭 みえ音楽コンクール」の立ち上げに尽力し、以来国内外で活躍する三重県出身の音楽家の育成に力を注いできたことは特筆される。</p> <p>氏のこうした活動と功績は優れたものであり、本県の文化の活性化に大きく貢献している。</p>

賞別：文化功労賞

活動分野等：写真分野

名 前	住 所	受 賞 理 由
<p>さかお とみじ 坂尾 富司 (70 歳)</p>	<p>鈴鹿市</p>	<p>氏は、学生時代に写真を始めて以来、50年以上の写真歴を有する。「みえ県展」では優秀賞をはじめ19回の入賞・入選をした。また、二科展では9回の入選を果たし、平成17年に会友、平成25年に会員に認定された。全日本写真連盟主催の「国際サロン展」では、最高賞である審査員特別賞を3回受賞するなど、数多くの優れた功績を収めてきた。</p> <p>また、「みえ県展」をはじめ、鈴鹿市、津市などの市美術展の審査員を務め、写真美術の向上と普及に尽力してきた。</p> <p>さらに、全日本写真連盟三重県本部において、委員長等を歴任し、県内18支部の取りまとめや各支部で開催される月例会の講師を務めるとともに、県本部主催のバレリーナ撮影会や海女撮影会、フォトハイキング等を実施し、積極的に会員への指導を行い、後進の育成に尽力してきた。</p> <p>この他、平成26年には、地域の祭り等を長く後世に残すための記録写真として写真集「鈴鹿の祭りと年中行事」を自費出版し、地域の文化興しにも貢献している。</p> <p>氏のこうした活動と功績は優れたものであり、本県の文化の活性化に大きく貢献している。</p>

賞別：文化功労賞

活動分野等：音楽分野（合唱）

名 前	住 所	受 賞 理 由
<p>つじよせいがっしょうだん 津女声合唱団</p> <p>(代表：落合 悦子)</p>	<p>津市</p>	<p>昭和46年に津市中央公民館合唱教室として発足以降、津市民音楽祭への参加や学校、施設への慰問演奏、三重大学病院でのコンサートなど、地域に密着した活動を実施し、合唱を通じて地域の振興に貢献してきた。現在は、発足時から在籍する90代の団員から20代の団員まで約30名が在籍しており、世代を超えて脈々とハーモニーの美しさを追求している。</p> <p>「全日本おかあさんコーラス全国大会」では、平成11年に最高位の「ひまわり賞」、平成29年に選考委員奨励賞を受賞した。</p> <p>また、昭和56年に開催した10周年記念演奏会以降、5年ごとに節目の演奏会を実施している。その他にも県内の他の合唱団等と合同演奏会を開催するなど、本県の音楽文化の普及に貢献してきた。</p> <p>さらに、平成28年にはウィーン国立歌劇場で開催された東日本大震災復興コンサートに出演し、地元音楽関係者からも高い評価を受けた。令和元年にはバチカン市国から招聘され、サンピエトロ大聖堂の夜のミサに聖歌隊として参加するなど、国際交流の役割も果たしてきた。</p> <p>当団体のこうした活動と功績は優れたものであり、本県の文化の活性化に大きく貢献している。</p>

賞別：文化奨励賞

活動分野等：伝統芸能分野（邦楽）

名 前	住 所	受 賞 理 由
かとう 加藤 さとみね 訓峯	鈴鹿市	<p>氏は、幼少の頃に三味線を始め、平成7年に鈴鹿市で訓峯会を設立し、津軽三味線、民謡の指導を始めた。平成17年以降、一般財団法人日本郷土民謡協会による全国大会において、三重県初の器楽合奏優勝を果たし、有功章、優秀指導者賞などを受賞している。</p> <p>著名な演歌歌手と共演するなど、日本全国で演奏活動を行うとともに、ニューヨークのカーネギーホール等、海外公演も行い、国内外で活躍している。</p> <p>また、活動拠点の三重県では、全国伊勢音頭連絡協議会の三重県支部長を務め、伊勢音頭の研究・検証を行い、本場伊勢音頭の確立に向け、活動を続けている。</p> <p>さらに、その保存・継承と全国の保存団体との交流連携に努めながら、全国的に伊勢音頭の普及活動を行うとともに、プロ民謡歌手への伊勢音頭指導も行っている。</p> <p>氏は、こうした活動により功績を収め、本県の文化興しに貢献している。</p>

賞別：文化奨励賞

活動分野等：生活文化分野（書道）

名 前	住 所	受 賞 理 由
<p>なかがわ ちようらん 中川 瑠雲 (本名：中川 成人) (49 歳)</p>	<p>鈴鹿市</p>	<p>氏は、平成 8 年より書道を本格的に始め、平成 17 年に「鈴鹿市美術展」岡田文化財団賞、平成 18 年に議長賞、平成 20 年に教育長賞、平成 21 年に市長賞を受賞している。他にも平成 30 年に「読売書法展」で読売奨励賞、令和元年に「みえ県展」で岡田文化財団賞を受賞するなど、数多くの受賞歴を有する。</p> <p>また、県立高等学校芸術科教諭として書道を指導するとともに、校外での書道展を企画し、メディア部門を取り入れる等、多様な運営に力を入れている。</p> <p>高校における書道教育の地域への浸透を図り、書道関係学部への進学指導や後進の育成に努める。</p> <p>さらに、三重県高等学校書道教育研究会理事を務める他、三重県書道連盟においては、展覧会部長として、「連盟展」の企画・運営を行い、県民の書道文化の普及や発展に尽力している。</p> <p>氏は、こうした活動により功績を収め、本県の文化興しに貢献している。</p>

賞別：文化奨励賞

活動分野等：文学分野（川柳、エッセイ、小説）

名 前	住 所	受 賞 理 由
<p>はしくら くみこ 橋倉 久美子 (58 歳)</p>	<p>津市</p>	<p>氏は、平成7年「教育文芸みえ」に川柳を投稿して以来、同誌にエッセイ、小説、ノンフィクション等を投稿。平成14年からは文芸同人誌「文宴」に川柳、エッセイ、小説等を発表している。</p> <p>平成17年に川柳部門、平成18年にエッセイ部門において「鈴鹿市文芸賞」最優秀賞、平成23年「三重県文化賞」新人賞をそれぞれ受賞。一方、県外においては、平成28年川柳展望誌「現代川柳大賞」、平成30年北海道川柳大会「知事賞」を受賞するなど、活動の範囲は県内外に及ぶ。</p> <p>さらに、平成16年三重県川柳連盟大会、川柳展望全国大会で選者を務めて以来、県内外の川柳大会、誌上大会、「毎日新聞東海文芸川柳欄」等で選者の重責を果たしている。</p> <p>また、鈴鹿川柳会例会で互選合評会の司会、NHK津放送局FM番組「三重DE川柳」における選者・コメンテーターとして、初心者を含めた県内川柳作者の作句力・選句力の向上に貢献している。現在、三重県川柳連盟理事を務める。</p> <p>氏は、こうした活動により功績を収め、本県の文化興しに貢献している。</p>

賞別：文化奨励賞

活動分野等：美術分野（ガラス工芸）

名 前	住 所	受 賞 理 由
<p>はやしだ 林田 さなえ (61 歳)</p>	<p>名張市</p>	<p>氏は、平成 11 年にステンドグラス教室を名張市で開講し、現在では、奈良県橿原市でも指導している。</p> <p>平成 15 年から 5 年間、県立高等学校で特別非常勤講師としてガラス工芸の授業を担当し、ステンドグラスだけでなく、サンドブラスト、フュージング、エアバーナーなど様々なガラス工芸技術を指導した。</p> <p>平成 25 年には、「みえ県展」で優秀賞、平成 30 年に「日本現代工芸美術展」で新人賞などを受賞している。</p> <p>平成 31 年には、「名張市政 65 周年功労者記念品」、「名張市展受賞記念品」の制作を行っている。</p> <p>ステンドグラス制作の高度な技術を指導した成果として、近年、教室生が「名張市展」や「伊賀市展」で入賞、全国規模の「大阪工芸展」や「京都芸術祭」に出展するまでに至っている。</p> <p>氏は、こうした活動により功績を収め、本県の文化興しに貢献している。</p>

賞別：文化奨励賞

活動分野等：伝統工芸分野（松阪木綿）

名 前	住 所	受 賞 理 由
<p>まつさか 松阪もめん手織り でんしやう 伝承グループ ゆうづる会 (会長：伊藤 訓子)</p>	<p>松阪市</p>	<p>昭和56年に松阪木綿の伝承と技術の保存・発展を目的に設立され、江戸時代以来の機織技術の伝承と後継者の育成、藍の栽培から染料の研究、染付け技術の普及等に取り組んでいる。</p> <p>平成元年に「三重県平成文化賞」、平成3年に公益財団法人手織技術振興財団「織成賞」の審査員特別賞などを受賞している。また、当団体は三重県指定伝統工芸品「松阪木綿」の指定団体に登録されており、当団体が作成する反物などは松阪ブランドに認定されている。</p> <p>地域での活動として幼稚園、小・中学校、高校、公民館などで染色や糸紡ぎを指導しているほか、旧長谷川邸（国の重要文化財）で機織り体験を週3回実施し、県内外の観光客に松阪木綿の魅力を伝えている。</p> <p>その他にも、5年毎に記念作品展を開催し、市民に周知・啓発をするなど、松阪市の伝統文化財の保護、地場産業・観光産業の振興などに大きく貢献している。</p> <p>当団体は、こうした活動により功績を収め、本県の文化興しに貢献している。</p>

賞別：文化新人賞

活動分野等：美術分野（デザイン）

名 前	住 所	受 賞 理 由
<p>かとう 加藤 ひろな (18 歳)</p>	<p>鈴鹿市</p>	<p>氏は、中学校で美術部に入部し、活動を開始し、部活動を通して平成 28 年に全国農業協同組合中央会主催の「ごはん・お米とわたし」作文・図画コンクール図画部門で内閣総理大臣賞、平成 29 年及び平成 31 年に「全国読書感想画中央コンクール」優秀賞、平成 30 年に国土交通省主催の「河川愛護月間絵手紙」優良賞（水管理・国土保全局長賞）など、多数の全国規模のコンクールで受賞している。</p> <p>受賞した作品の中には、防犯啓発運動にかかるポケットティッシュのパッケージや家族の大切さを伝えるポスターカレンダーとしてデザインが採用され、広く配布されたものもある。</p> <p>平成 31 年にはアメリカのボストンチルドレンズミュージアムで入選し、一年間作品を展示された。</p> <p>氏のこうした活動は、将来一層の向上が期待できる。</p>

賞別：文化新人賞

活動分野等：音楽分野（リコーダー）

名 前	住 所	受 賞 理 由
<p>なかむら ひでひろ 中村 栄宏 (32 歳)</p>	<p>オランダ (桑名市出身)</p>	<p>氏は、平成 21 年に全日本リコーダーコンテスト高校・大学部門（独奏）及び一般部門（重奏）で花村賞（最高位）を、平成 26 年に全日本リコーダーコンテスト指導者賞を受賞している。</p> <p>平成 30 年にノートホルン国際リコーダーコンペティション第 2 位、平成 31 年にテルアビブ国際リコーダーコンペティション 3 位を獲得している。</p> <p>平成 21 年に桑名市で初のソロリコーダーリサイタルを開催して以来、毎年桑名市民会館でコンサートを行い、その中で三重県でリコーダーを演奏する子どもの披露の場としてプレコンサートを実施するなど、三重県の音楽文化の発展に寄与している。</p> <p>氏のこうした活動は、将来一層の向上が期待できる。</p>

賞別：文化新人賞

活動分野等：生活文化分野（書道）

名 前	住 所	受 賞 理 由
<p>ももち たくそう 百地 拓窓 (本名：ももち たくや 拓也)</p> <p>(28 歳)</p>	<p>名張市</p>	<p>氏は、大学在籍時より多くの展覧会に出品しており、「みえ県展」書部門において平成 30 年に優秀賞、令和元年に最優秀賞、令和 2 年に「日本書芸院三月審査会」二科審査会員の部において大賞を受賞している。</p> <p>平成 30 年から高等学校で書道科教諭として指導を行うとともに、三重県高等学校文化連盟に所属している書道部員への指導や、小学生が対象の公開講座で講師として書道体験授業を行うなど人材育成に貢献している。</p> <p>さらに、三重県私学協会研修専門委員として、筆作り体験を企画するなど書文化の振興にも寄与している。</p> <p>氏のこうした活動は、将来一層の向上が期待できる。</p>

第20回 三重県文化賞の概況

1 賞の趣旨

三重県の文化振興に貢献し、その活動及び功績が優れた個人・団体を表彰することにより、優れた活動や功績の周知を図るとともに、より高い自己研鑽に努めていただく目標にもなるよう、顕彰制度として三重県文化賞を設ける。

2 募集期間

令和2年8月12日から10月12日まで

3 受賞候補者の状況

文化大賞	14名	
文化功労賞	10名	
文化奨励賞	18名	
文化新人賞	6名	総数 48名

4 受賞者の状況

(1) 分野別受賞者数

賞区分	分 野										計
	文学	美術	音楽	演劇・ 舞踊	写真	マイ 芸術	伝統 芸能	生活 文化	学術	伝統 工芸	
文化大賞			1								1
文化功労賞			2		1						3
文化奨励賞	1	1					1	1		1	5
文化新人賞		1	1					1			3
計	1	2	4		1		1	2		1	12

(2) 地域別受賞者数

賞区分	地 域（各地域防災総合事務所・地域活性化局）										計
	桑名	四日市	鈴鹿	津	松阪	南勢志摩	伊賀	紀北	紀南	県外	
文化大賞							1				1
文化功労賞			1	2							3
文化奨励賞			2	1	1		1				5
文化新人賞			1				1			1	3
計			4	3	1		3			1	12

三重県文化賞歴代受賞者（第1回～第20回）

		文化大賞	文化功労賞	文化奨励賞	文化新人賞
第1回	平成13年度	北村 憲司（児童文学）	勝美 伊三次（日本舞踊） 保黒 時男（植物生態学調査）	あの津っ子の会（児童文学） 伊勢管弦楽団（交響楽） 伊藤 宏樹（吹奏楽） 落合 花子（詩歌） 川端 守（地域づくり活動）	新井 明子（演劇） 津手づくり絵本の会（児童文学） 坪井 智子（箏曲） 伴 剛一（作曲活動） 東川 和子（川柳） 平田 環（俳句）
第2回	平成14年度	（該当者なし）	亀山絵本と童話の会（児童文学） 坪島 土平（陶芸） 三重ヴォークスボーナ（合唱）	伊勢シンフォニックバンド（吹奏楽） 菅生 三千代（箏曲） 羽場 正一（演劇） 黛 元男（詩歌） 南川 憲生（彫刻）	池田 比早子（ひのきクラフト） 鎌田 美津子（写真） ゴルジ隊（演劇） 阪野 優（マンボ研究） 田中 豊（演劇） 中森 勉（写真） 平賀 節代（俳句） 森田 茂治（詩歌）
第3回	平成15年度	稲垣 克次（彫刻）	川北 佐平治（伝承芸能） 中村 武郎（ギター・マンドリン） 山口 勲（俳句）	金子 聡（環境科学研究） 北住 淳（ピアノ演奏） 近藤 英子（彫刻） 森 一蔵（萬古焼） 山内 玲子（箏曲）	石井 烈（俳句） 佐々木 経子（俳句） 東 勝美（児童文学） Building Bridges （文化資産等の保護） 津軽三味線兄弟ユニット KUNI-KEN（津軽三味線） 三浦 恭子（インド舞踊） 水野 昌光（地域の映画館を 活用した市街地活性化）
第4回	平成16年度	ヴォーカルアンサンブル 《EST》（合唱）	岡村 信也（吹奏楽） 土屋 喜八郎（能楽） 中林 長生（俳句）	笠井 幹夫（オペラ） 木岡 ふみ子（箏、三絃） 佐々木 宏子（ピアノ演奏） 清水 正明（郷土文学者・ 文学作品の発掘、紹介） 谷口 智行（俳句）	阪本 青悠（書） 高崎 一郎（詩） 中山 かほり（吹奏楽） 藤田 智子（箏、十七絃等） 松田 実靱（小説） 三重大学ダンス部（ダンスの創作）
第5回	平成17年度	野口 巳織子（日本画）	関宿町並み保存会 （関宿の町並み保存） 田村 美保子（大正琴） 間瀬 昇（評論、小説）	田村 公男（洋画） 東海 かおり（箏、三絃） 福山 良子（俳句） 松嶋 節（小説） 山村 楽女（日本舞踊）	伊勢童話をつくる会“ほほえみ” （童話） 麻植 慶治（雅楽） 奥山 和子（俳句） 後藤 千佳子（筆名；伍東ちか） （現代詩） 津村 美香（フラワーデザイン） 人情集団An-Pon-Tan （バリアフリーミュージカル）
第6回	平成18年度	谷本 光生（伊賀焼）	岡森 章（伊賀焼） 森 浩一（能楽・狂言）	川島 雅樹 （声楽・オペラ・合唱） 水谷 幸勉（工芸美術） 宮村 典子（川柳） 村上 しいこ（童話） 三重オペラ協会（オペラ）	佐藤 千恵（俳句） みえ熊野学研究会 （地域資産研究）

		文化大賞	文化功労賞	文化奨励賞	文化新人賞
第7回	平成19年度	宮田 正和（俳句）	越知 愛幸子（合唱） 中川 忠峰（根付） 吉居 清雄（堅塩作り）	中山 かほり（吹奏楽） 西田 誠（俳句） 秦 昌弘（郷土作家の研究） 服部 博之（和太鼓） 馬場 浩子（声楽）	アモーレかめやま（大正琴） 梅山 憲三（現代詩） 垣内 美穂（詩・児童文学） 桐生 智晃（吹奏楽） 葛原 郁子（短歌） 現代邦楽奏団グループ竹友（邦楽） 比留間 雅弥真天（邦楽）
第8回	平成20年度	小野 雅生（洋画）	稲垣 無得（書） 倉田 しげる（俳句）	伊藤 政美（俳句） 岩崎 孝子（洋画） 津田 親重（日本画） 野村 幸廣（ミュージカル） 山本 翠松（伝統漆工芸）	秋野 信子（詩・小説） 岡本 妙子（詩） 劇団員弁川（演劇） 福田 容子（俳句）
第9回	平成21年度	園田 幸男（吹奏楽）	赤井 重規（能楽） 原 直矢（彫刻） 鍋島 泰（方言の研究）	橋本 輝久（俳句） 三重県吹奏楽連盟（吹奏楽） 田中 厚好（彫刻） 青木 久佳（短歌） 岸 武男（演劇）	山口 道子（版画） 前田 照子（俳句） やまぎり 萌（現代詩） 林 英一（多文化共生の研究） 長岡 むつみ（リコーダー指導） 中川 左和子（短歌）
第10回	平成22年度	長島 幹生（写真）	相賀 泰（神楽） 衣斐 弘行（評論・小説の 執筆、郷土作家の顕彰） 川合 俊平（合唱）	小河 柳女（川柳） 津奈乃会（邦楽） 矢田 新男（写真） 矢吹 紫帆 （音楽による地域振興）	小早川 涼（小説） 佐藤 ゆかり（女性史の研究） 多気町劇団白つばき（演劇） 橋倉 久美子（川柳） 橋本 石火（俳句） 堀内 晶（地域の歴史・文化と 戦争体験の語り継ぎ） 村田 三郎（地域文化の紹介と 観光ボランティアガイド） 村山 砂由美（詩）
第11回	平成23年度	稲葉 祐三 （声楽・合唱・オペラ）	田嶋 禮子（マリンバ） 玉置 千代（児童文学） 野嶋 峰男（木漆工芸）	伊藤 清和（美術の振興） 神田 ひろみ（俳句・評論） 清崎 博（安乗の人形芝居） 山崎 龍芳（伊賀焼） 四日市ジュニア・アンサンブル （合奏等）	越知 ひとみ（音楽の普及） 小津 由実（俳句） 斎宮アカデミー（歴史・文化） 清水 潮（萬古焼） 中西 紀和（陶芸）
第12回	平成24年度	橋本 三重子 （日本画、書道）	伊藤 政美（俳句） 角谷 英明（陶芸） 菅生 和光（吹奏楽、指揮者）	桐生 智晃（吹奏楽） 坂尾 富司（写真） 中村 かおる（箏曲） 西田 真也（陶芸） 三重県陶芸協会 （「焼きもの」の振興）	真山 隼人（浪曲） 志摩市俳句協会（俳句） 手塚 泰子（俳句） 西村 健二（郷土史研究） 堀川 孝子（詩） 村松 とし子（短歌）
第13回	平成25年度	三重フィルハーモニー 交響楽団（交響楽）	羽場 正一（演劇） 羽根 功二（合唱） 森 悦彦（作詞・作曲）	小川 匪石（書） 紀の川良子と市民劇団 （演劇を通じた地域振興） 阪本 青悠（書） 達知 和子（短歌） 比留間 雅弥真天（箏・三弦）	岩田 典子（俳句） 服部 真紀子（陶芸） 廣 めぐみ（声楽）

		文化大賞	文化功労賞	文化奨励賞	文化新人賞
第14回	平成26年度	加藤 子華（書）	谷本 景（伊賀焼） 森 正（陶芸） 脇谷 実千子（児童文学）	尾崎 亥之生（俳句） 武村 豊徳（陶芸） 伴野 節子（箏・三絃） 吉川 光和 （競技かるたの読み手） 吉崎 柳歩（川柳）	伊藤 圭佑（津軽三味線） つげ みさお（児童文学） 西田 昂平（声楽） 和太鼓 凜（和太鼓）
第15回	平成27年度	三代 清水 醉月（陶芸）	加藤 純一（詩吟） 福田 勝（能楽） 松山 好成（組紐）	印藤 幸恵（陶芸） 坂口 緑志（俳句） 田邊 三郎（写真） 中井 智弥（箏曲） 安田 隆亮（絵画）	牛場 寿子（写真） 大形 弥生（木工） 駒田 早代（津軽三味線） 野瀬 みつ子（写真） 平野 透（俳句）
第16回	平成28年度	錦 かよ子（作曲）	石井 いさお（俳句） 矢田 新男（写真）	梅山 憲三（現代詩） 岡本 千尋（俳句） 加藤 秀樹（陶芸） 憲旺会（尺八） 伴 剛一（作曲）	伊藤 潤一（書） 前田 祐英（木工） 森川 眞理子（パステル画） 森下 充子（俳句） 横田 千明（彫刻）
第17回	平成29年度	合唱団「うたおに」（合唱）	井上 博暁（俳句） 菊川 淑子（能） 桐生 智晃（吹奏楽）	牛場 和美（写真） 紺谷 猛（小説） 近藤 たみ（陶人形） 藤原 伸久（小説） 森 玲子（箏曲）	赤野 四羽（俳句） 岡島 千秋（俳句） 久保 恵子（詩・児童文学） 小林 美咲（声楽） 白木 千華（陶芸）
第18回	平成30年度	林 克次（陶芸）	多門 志風（水墨画） 恒岡 光興（伊賀焼） 西川 里寿（日本舞踊）	現代邦楽奏団「新しいぶき」 （邦楽） 谷本 雅一（石彫刻） 辻井 甫山（尺八） 戸田 真樹（文芸評論） 西尾 敬一（俳句）	岩田 優里愛（ヴァイオリン） 高藤 典子（詩・短歌・俳句） 竹内 洋司（尺八） 藤田 哲也（日本画） 森本 昭子（俳句）
第19回	令和元年度	大川 吉崇（郷土文化）	荒木 友梅（書道） 河俣 和子（合唱） 橋本 輝久（俳句）	遠藤 昭己（小説・詩） 女声合唱 Luce（合唱） 名張こども能楽囃子教室実行委員会 （能楽囃子） 平賀 節代（俳句） 村山 昌子（小説・童話）	岩名 泰岳（絵画） 小川 はつこ（散文） 川渕 皓平 （竹製ランプの制作・演出） 清水 ゆん（短歌） 橋本 莉（大正琴）
第20回	令和2年度	菅生 和光（吹奏楽・指揮）	兼重 直文 （ピアニスト・音楽指導者） 坂尾 富司（写真） 津女声合唱団（合唱）	加藤 訓峯（邦楽） 中川 瑠雲（書道） 橋倉 久美子 （川柳・エッセイ・小説） 林田 さなえ（ガラス工芸） 松阪もめん手織り伝承グループゆうづる会 （松阪木綿）	加藤 ひろな（デザイン） 中村 栄宏（リコーダー） 百地 拓窓（書道）